



私の思い出写真館

清華大学の仲間たち



野田 由美子

ブライスウォーターハウスクーパース
パートナー、PPP・インフラ部門
アジア太平洋地区代表

「トイレが詰まって水があふれている」「学食のメニューが油っこくて食べられない」「研究室の机は、ほこりならぬ砂だらけ」……。経済同友会をお休みしていた2010年から2011年、私は清華大学のシニア・フェローとして北京に滞在していた。欧米で10年以上の滞在経験があるものの、中国での生活はすべてが挑戦だった。

でも、共に時間を過ごした同僚たちはとても心温かく、家族のように接してくれた。一緒に、道教の聖地である泰山に登ったり、孔子の故郷を訪ねたり、蘇州や杭州を旅したり、北京のマッサージに連夜通ったり。セミのから揚げを無理やり食べさせられ、不覚にもお腹をこわして寝



泰山の山頂で曲先生と



人民大会堂で行われた100周年記念式典で



いつも一緒だった同僚たちと
筆者の送別会の席で

込んでしまったことも。今となっては懐かしい思い出だ。

それにしても清華大学のパワーには圧倒された。川が流れ、学生用のマンションが立ち並び、スーパーマーケット、ガソリンスタンドまである広大なキャンパス。学生は、中国各地からえりすぐられたエリートたち。国を背負った真剣なまなざしで勉学に励んでいる。文武両道の教育方針から、スポーツも盛んだ。英語のレベルも高く、私が英語で行う授業でも、鋭い質問が飛ぶ。

極め付きは政治力。昨年4月に行われた創立100周年記念イベントには、清華大学の卒業生である胡錦濤国家主席、習近平国家副主席をはじめ、共産党の中央政治局常務委員がずらりと並んだ。さながらテレビで見る共産党大会のよう。

威圧的な大学の雰囲気と心温かい同僚たち。その際立った対照さが、私にとっての中国だ。同大教育基金会の日本でのお手伝いを通して、仲間たちとの付き合いは続く。彼らともっと意思疎通をとの思いから、週三回、北京の先生と、スカイプで中国語のレッスンに励んでいる。